

学校インターンシップ参加者の声

理論と実践をつなぐ貴重な経験

言語教育情報研究科では、協定を結ぶ高校の英語科授業の教科補助を通じて学ぶ学校インターンシップを実施しています。参加した院生に、その経験について聞きました。



1回生C・Yさんに伺いました

インターンシップに応募した理由



私はこれまで民間の英語教育機関で指導経験がありましたが、高校の先生方がどのように授業を設計し、生徒を支援し、ICTを活用しているのかを実際に見てみたいと思いました。

また、授業観察やマイクロティーチングを通して、自分の指導についてフィードバックを受けたいと考え、このインターンシップに参加しました。

印象に残った経験



特に印象に残っているのは、「First Impressions」をテーマにしたマイクロレッスンです。生徒たちは英文を読む活動には積極的でしたが、実際にアウトプットする場面では苦戦していました。また、AIを使った会話活動でも、生徒にとっては少しハードルが高いことに気づきました。私はこの経験を通じて、

- ✓ 学習者の立場で授業を考えること
- ✓ 足場かけ（Scaffolding）の重要性
- ✓ 支援を段階的に減らしていくことの大切さを学びました。

この活動に興味を持った方へ



授業をうまく見せることよりも、「学習者一人ひとりに目を向ける」ことが大切だと感じました。このインターンシップでは、多くの授業を観察し、先生方から率直なアドバイスをいただくことができます。最初から完璧な授業ができなくても心配はいりません。失敗から学び、成長できる環境があります。

この経験を通して、英語を教えることへの理解が大きく変わりました

「学習者を起点に考える教師になりたい」そう思える貴重な経験でした。